



防衛 北海道

Bouei Hokkaido
October 2017
Hokkaido
Defense Bureau
Ministry of Defense

Vol. 54



日米共同訓練に参加したMV-22オスプレイ

目次

• 防衛白書の刊行について	・・・	2
• 日米共同訓練（ノーザンヴァイパー）	・・・	4
• 千歳市休日夜間急病センター（ささえーる）完成	・・・	6
• 防衛施設と周辺地域との調和を図るために	・・・	7
• 絆（きずな） ～浜中町と別海矢野別大演習場の紹介～	・・・	8
• 北海道防衛局幹部紹介（8月1日付）	・・・	9
• 第37回 防衛問題セミナー開催	・・・	10

編集・発行

防衛省北海道防衛局広報誌等編集委員会
札幌市中央区大通西12丁目札幌第3合同庁舎
Tel.011-272-7579
<http://www.mod.go.jp/rdb/Hokkaido/>

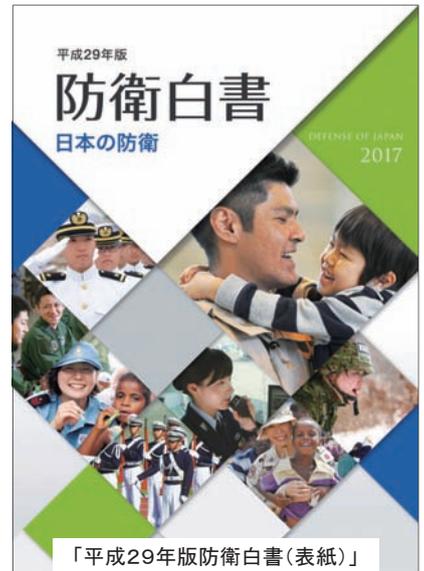


防衛白書の刊行について

防衛省は8月8日に29年版の防衛白書を刊行しました。

防衛白書は、わが国の防衛政策への理解の促進を図るため、昭和45年以来、今回で43回目の刊行となります。

29年版は28年版の刊行から概ね1年間（28年7月から29年6月末まで）に発生した事象や取りまとめた政策などを中心に記述しています。



「平成29年版防衛白書(表紙)」

1 29年版白書の特色について

29年版白書の特色としては、3つ挙げられます。

(1) 分かりやすさの追求

安全保障に関する用語や兵器は専門性が高く、一般国民の皆様には理解が困難なものもあることから、専門用語を「キーワード」として本文中にハイライトし解説を付したほか、本文中の諸外国の主要兵器について写真や性能諸元、解説を付すなど、丁寧な記述を心掛けました。

(2) 巻頭特集の充実

より多くの国民の皆様に興味を持っていただけるよう、昨年よりも大幅に拡充し、写真や図などを用いて分かりやすく記述しました。

具体的には、①防衛省移行後の10年間の歩み、②日本の防衛この1年、③女性自衛隊員の活躍、④優秀な人材の確保の4つをテーマに特集しています。



(3) 読者の拡大に関する取組

より多くの国民の皆様には防衛白書を読んでいただく観点から、これまでの防衛省HPでの無料ダウンロードに加え、民間の電子書籍市場においても無料ダウンロードできるようにしました。

2 29年版白書の内容について

29年版白書は、例年と同様に、3部構成で編集しています。

◆第1部「わが国を取り巻く安全保障環境」

この1年間の国際軍事情勢を振り返った上で、一層厳しさを増す昨今のわが国を取り巻く安全保障環境について各種事象を可能な限り広範囲に記述しています。

アジア太平洋地域における安全保障環境については、

○北朝鮮による核兵器・弾道ミサイルの開発や運用能力の向上が、昨年来、新たな段階の脅威となっていること

○中国による独自の主張に基づく現状変更の試みの進展が、わが国を含む地域・国際社会の安全保障上の強い懸念となっていること

○ロシアによる北方領土への沿岸（地対艦）ミサイル配備等から、引き続き北方四島を含む極東におけるロシア軍の動向を注視していく必要があること

など、特に、北朝鮮、中国については防衛省の新たな評価を記述するとともに、ロシアについては、昨年版白書と同様、引き続き注視していく必要がある旨記述しています。

◆第Ⅱ部「わが国の安全保障・防衛政策と日米同盟」

わが国の安全保障と防衛の基本的考え方、統合機動防衛力の構築、平和安全法制などの整備と施行後の自衛隊の活動状況、沖縄の負担軽減などを含めた日米同盟の強化などについて記述しています。

○第3章「平和安全法制などの整備と施行後の自衛隊の活動状況」では、法制の施行後の自衛隊の活動状況につき、新たに節立てして記述しています。具体的には、

- ・平成28年8月以降の平和安全法制に関する訓練の実施状況
- ・同年11月の南スーダンPKOにおける、いわゆる駆け付け警護の任務などの付与
- ・同年12月の米軍等の部隊の武器等防護の運用に関する指針の決定
- ・平成29年4月に発効した新たな日米物品役務相互提供協定（ACSA）の締結

などについて記述しています。

○第4章「日米同盟の強化」では、①「日米安全保障体制の意義」、②「同盟強化の基盤となる取組」、③「在日米軍の駐留」の3つの節に分けて記述しているほか、

- ・沖縄本土復帰後最大の返還である北部訓練場の過半、約4,000haの返還の実現
- ・普天間飛行場の移設・返還に向けた取組
- ・MV-22などの訓練移転
- ・「駐留軍等の再編の円滑な実施に関する特別措置法」の10年間延長

など、記述対象期間に進展のあった政策などについて重点的に記述しています。

【MV-22の訓練移転】

平成28年9月1日、日米合同委員会の合意に基づき、平成29年3月6日から約2週間にわたって、国内における米海兵隊との実動訓練（フォレスト・ライト02）に併せてMV-22（6機）が飛来し、本土における初めての訓練移転（日米共同訓練）を関山演習場（新潟県）及び相馬原演習場（群馬県）において実施しました。平成29年4月には、平成29年度の訓練移転として3回程度実施する計画であることを公表しています。

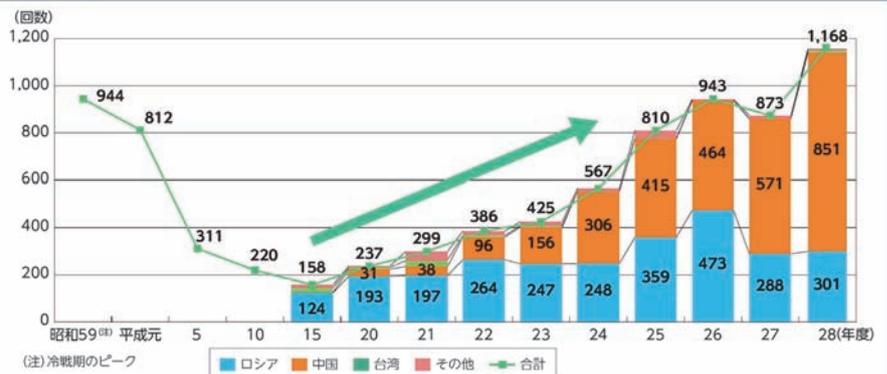


◆第Ⅲ部「国民の生命・財産と領土・領海・領空を守り抜くための取組」

各種事態に対する実効的な抑止及び対処、各国との防衛協力・交流などの安全保障協力の積極的な推進、防衛装備・技術に関する諸施策及び地域社会・国民との関わり、防衛省・自衛隊の取組などを記述しています。

○「実効的な抑止及び対処」（第1章第2節）においては、平成28年度の空自機による緊急発進（スクランブル）回数は1,168回であり、領空侵犯措置を開始して以来、過去最多となり、そのうち中国機に対する緊急発進回数は851回であり、前年度と比べ280回増となったことなど図表等を用いて記述しています。

図表Ⅲ-1-2-3 冷戦期以降の緊急発進実施回数とその内訳



日米共同訓練

Northern
Viper

【訓練の概要】

平成29年8月10日から8月28日までの19日間、北海道大演習場、別海矢臼別大演習場等において、国内における米海兵隊との実動訓練（ノーザンヴァイパー）が実施されました。

本訓練は、陸上自衛隊及び米海兵隊の部隊が、それぞれの指揮系統に従い、日米共同による諸職種協同作戦を実行動により訓練するものです。

訓練開始式（北海道大演習場）

訓練開始式（第11旅団長と第1海兵航空団司令）
（北海道大演習場）

本訓練には、北部方面隊第11旅団第28普通科連隊（函館駐屯地）、第11特科隊（真駒内駐屯地）を基幹とする部隊等と米海兵隊第3海兵師団第4海兵連隊の1コ大隊、第12海兵連隊（砲兵）の1コ大隊を基幹とする部隊等が参加しました。

主な訓練として、空中機動訓練、ヘリボン訓練、第一線救護訓練、射撃訓練等を行いました。

99式155mm自走榴弾砲（別海矢臼別大演習場）



攻撃前進訓練（北海道大演習場）



【MV-22オスプレイ等の訓練参加】

空中機動訓練（北海道大演習場）



第一線救護訓練



本訓練には、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）に所在しているMV-22オスプレイが、米軍三沢飛行場を拠点にして、初めて北海道で訓練を行いました。

この訓練移転は、平成28年9月1日付の日米合同委員会合意に基づき、沖縄県外での訓練の一層の推進を図り、訓練活動に伴う沖縄の負担を軽減するため、現在米軍普天間飛行場に所在するMV-22オスプレイ等の訓練活動を沖縄県外に移転し、実施するものであり、今回で訓練移転は3回目となりました。

【当局の対応】

当局は、訓練開始から終了まで陸上自衛隊北部方面総監部内に現地連絡調整所、北海道大演習場及び別海矢臼別大演習場に現地出張所を設置し、それぞれに職員を常駐させ、陸上自衛隊との緊密な連携の下、連絡調整及び訓練に係る情報収集等を行い、関係自治体への情報提供を行ったほか、MV-22オスプレイの騒音測定等を行いました。



現地出張所の様子（北海道大演習場）

特定防衛施設周辺整備調整交付金事業

9月5日、平成28年度から建設が進められてきた「千歳市休日夜間急病センター（ささえーる）」がこのほど完成し、開設式が行われました。

休日夜間急病センターは、休日及び夜間に市民が安心して受診できる初期救急医療体制を構築するため、利用者の目線に立ち、「快適性」・「効率性」・「機能性」を重視し整備されました。

『ささえーる』の開設により、これまで千歳市内医療機関の当番制で実施してきた休日や夜間の内科系初期救急を365日、『ささえーる』で実施することとなり、また、深夜0時までとなっていた診療時間も午前7時まで延長時間を延長するなど、千歳市の救急医療体制が強化されることとなりました。

北海道防衛局では、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」第9条に基づく特定防衛施設周辺整備調整交付金を千歳市に交付していますが、『ささえーる』の建設及び備品購入には、約2億3千万円の同交付金が充てられています。

山口幸太郎市長は式辞で、「センター開設により、市民の安心感に繋がるものと受け止めており、皆さんと一緒に大事に育て上げていきたい。また、『ささえーる』の愛称について、「医療を支え、市民の安心を支え、市民の皆さんの理解と協力を頂いてセンターの運営を市民の皆さんに支えて頂く」意味合いがあると思っている。『ささえーる』の愛称のもとにセンターを皆で支えていきたい。」と挨拶されました。

開設式には、当局から古川局長が出席し、『ささえーる』の開設を祝いました。



山口幸太郎市長



千歳市休日夜間急病センター



待合ホール

千歳市休日夜間急病センター

- 事業内容：建設工事、備品購入
- 建築面積：571.23㎡
- 交付額：約2億3千万円

防衛施設と周辺地域との調和を図るために

～道路改修事業の紹介～

防衛施設周辺の道路においては、自衛隊等の車両の頻繁な通行により、路面が損傷したり、一般車両とのすれ違いに支障をきたすなどの障害や周辺交通への影響が生じたりすることがあります。

防衛省は、こうした障害を防止又は緩和するために地方公共団体が必要な工事を実施するときは、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」に基づき、その工事に要する費用の全部又は一部を補助しています。今回は、平成28年度に実施した留萌市の道路改修事業「市道西5号通り改良舗装事業」をご紹介します。

留萌駐屯地周辺市道西5号通り改良舗装事業（留萌市）

市道西5号通りは、留萌駐屯地の大型車両の頻繁な通行により、一般車両とのすれ違いに支障をきたしたり、路面の損傷が著しい状況であったことから、これらの障害を緩和するため、平成16年度から平成28年度にかけて本路線を拡幅し、改良舗装工事を実施しました。

【補助事業の概要】

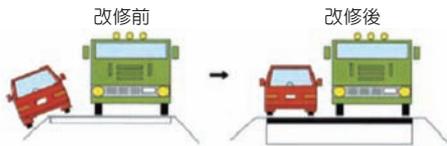
- 事業年度：平成16年度～平成28年度
- 事業費：約5億4千4百万円
(補助率：7.5/10)
- 補助額：約4億8百万円
- 内容：延長 1,377m
車道幅員 5.5m～6.0m
歩道幅員 2.5m



障害の状況

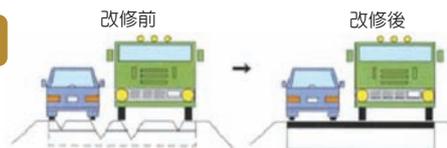


離合困難



通行車両により、道路交通に障害が認められる場合、車道の拡幅、改良及び舗装を実施

路面の損傷



通行車両により、路面が損傷し、通常の維持が困難な場合、舗装の補修を実施

【市担当者の声】

路面の損傷が改善され、車道及び歩道も拡幅されたことから、車両のすれ違いが容易となり、歩行者の安全も確保することができました。

改修前



改修後



絆

(きずな)

～浜中町と 別海矢臼別大演習場の紹介～



浜中町

HAMANAKA TOWN

〒088-1592

北海道厚岸郡浜中町霧多布東4条1丁目35番地1

代表電話 0153-62-2111



浜中町



松本 博 町長

■町長あいさつ

浜中町は、道東の釧路市と根室市の間に位置する人口約6,000人（面積423.63km²、東西33.4km、南北29.9km）の町です。年間を通じて気温は低めで冷涼な気候が特徴です。町南部に位置する霧多布湿原は、ラムサール条約登録湿地であり、中央部は「霧多布泥炭形成植物群落」として、国の天然記念物にも指定され、エゾカンゾウを始めとする草花が春から夏にかけて数百種類咲き誇ります。

本町の地域経済を支えるのは、農業・漁業の第一次産業です。沿岸部では、昆布漁をはじめとし、アサリなどの栽培漁業やウニ・カキの養殖を推進しています。一方、北部では酪農が盛んで、当町で生産された牛乳は、ハーゲンダッツアイスクリームなどの原材料としても利用されており、高品質と評価されています。近年では「ルパン三世」の原作者モンキー・パンチ氏が当町出身であることから、ルパン三世のキャラクターを用いての地域活性化に取り組んでいます。

人口減少・少子高齢化という課題を受け止め、基幹産業を守り続けていくため、Uターン就業者などに対する支援などを通じ後継者の確保などの取り組みを進めています。



昆布漁に向かう漁船



エゾカンゾウの群落



北部で盛んな酪農

■演習場・自衛隊との関わり

別海矢臼別大演習場は、当町の北部に位置し、当町のほか別海町と厚岸町にまたがる大規模な演習場です。

当町は太平洋に面しており、昭和27年の十勝沖地震津波、昭和35年のチリ津波を始め、過去に幾度も地震・津波被害を受けています。

そのため当町では、住民参加型の避難訓練など災害に備えた取り組みを行っています。陸上自衛隊釧路駐屯地には、平成26年度に内閣府と合同で行われた地震・津波防災訓練で、参加者への炊き出しや災害救助車両の展示などでご協力いただきました。また、大規模災害対処訓練などを通じて、浜中町の安心・安全のためにご尽力いただいております。



写真提供：釧路駐屯地広報班

地震・津波防災訓練（炊き出し準備）

別海矢臼別大演習場は、わが国最大の演習場で、総面積が約168km²にわたります。

同演習場では、人員3,000名以上による師団規模の総合戦闘力演習が行われる他、特科部隊による最大射程距離が約18kmに及ぶ実弾射撃訓練やパラシュート降下訓練等その広大な敷地を活かした訓練が行われています。

また、平成9年度から在沖米海兵隊による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の本土での分散・実施による訓練も行われています。

同演習場は、毎年約300日、道内外延べ約24万人の自衛隊員が様々な訓練を行っています。



写真提供：第11旅団司令部総務課広報室

北海道防衛局幹部紹介

局長 古川 浩人



この度、北海道防衛局長を拝命いたしました古川です。九州防衛局での勤務を経て、本年8月1日付で着任いたしました。北海道は5年ぶり2度目の勤務となります。前は企画部長として2年余り勤務いたしましたが、地元関係者には当時お世話になった方々が数多くおられ、大変うれしく、また心強く思っております。

今回は、着任早々、北海道大演習場を中心に日米共同訓練（ノーザンヴァイパー）が行われました。道内では初めてのオスプレイが参加する訓練でしたが、開始直前にオーストラリアでの事故が発生し、同機は当初の計画より遅れて訓練に参加することとなったものの訓練は無事終了いたしました。今回の訓練にご理解頂いた関係自治体を始め関係各位のご尽力に改めて感謝申し上げます。

近年の防衛力整備は、中国の海洋進出を念頭に南西地域が重視され、前任地の九州においてもそれを強く意識させられました。しかしながら、道内には、わが国最大の演習場である別海矢臼別大演習場や航空自衛隊千歳基地を始めとするわが国の防衛力と日米安全保障体制を支えるための重要な防衛施設が数多く所在し、その良好な訓練環境の一層の活用が求

められているところであり、北海道の重要性はこれまでと全く変わるものではありません。

わが国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増している中、北海道防衛局は、今後とも、防衛省・自衛隊の円滑な活動や防衛施設の安定的な使用のため、様々な課題に真摯に対応し、道民の皆様からご理解とご協力、そして信頼が得られるよう努めてまいります。

また、当局は、平成19年9月の防衛省の組織改編により、前身の札幌防衛施設局から北海道防衛局となって、今年で10周年を迎えました。これを機に、今一度、防衛局の役割を外部に積極的に発信することを目的として、当局のロゴマークを制定しました。このロゴマークは、当局が自治体や道民の皆様とともに連携して、北海道における防衛行政を担うことを表現したものとなっています。職員一同、ロゴマークに込められた思いを忘れることなく、国民の安心と安全を守る防衛省・自衛隊の役割を果たすため、道民の皆様により近い立場に立って考え、説明し、声を聞き、その声を伝えてまいります。引き続き皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



防衛補佐官 北川 真



8月1日付で防衛補佐官に着任した北川1佐です。

宮崎県出身で、北海道勤務は約6年半振りの4回目となります。近年、わが国を取り巻く安全保障環境は、より厳しさを増していますが、その中であって、北海道における防衛行政の拠点として、関係自治体等との良好な関係を維持し、自衛隊の運用を支える北海道防衛局の一員として勤務できますことを大変光栄に思います。

防衛行政に携わるのは、今回が初めてですが、これまでの部隊等における勤務経験を活かし、部隊運用の見地から局の事務を積極的に補佐する所存ですので、よろしくお願い致します。

弾道ミサイルの脅威と わが国の対応

講演1：「北朝鮮情勢と弾道ミサイル防衛について」

防衛省防衛政策局防衛政策課 防衛政策企画官 中野 憲幸

講演2：「Jアラートによる弾道ミサイル情報の伝達について」

内閣官房副長官補付 内閣参事官 伊藤 茂樹

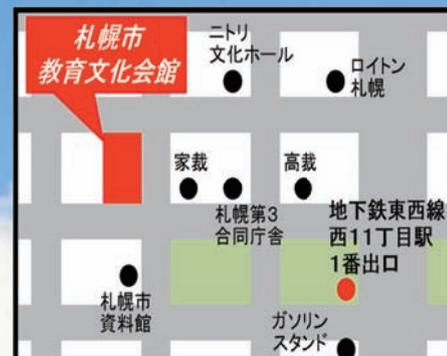
平成29年 **10/30** (月)

開場 18:00 開演 18:30

会場：札幌市教育文化会館 小ホール

(札幌市中央区北1条西13丁目)

入場無料



- ◆無料でご入場いただけます。事前のお申し込みは必要ありません。
- ◆終演時刻は20:30頃を予定しています。
- ◆会場には駐車場がございませんので、公共交通機関などをご利用ください。
- ◆講師及び内容が変更となる場合があります。

